

(表2) 鍼灸治療の科学的検討

A. 物理刺激による自律神経反射

刺鍼中に副交感神経系機能の亢進と交感神経 受容体系機能の抑制
交感神経 受容体系の機能高進, 二次的機能抑制を繰り返えす
触圧刺激; 副交感神経系機能亢進

B. 物理刺激を受容する場としての皮膚・皮下組織・筋

1. 皮膚・皮下組織への刺激: 副交感神経を遠心路とする反射。触圧刺激でも同様。
2. 筋への刺激は交感神経 受容体を遠心路とする反射: 圧刺激でも同様。

C. 生体における自律神経反応のリズム

1. 呼吸運動リズムと副交感神経機能: 吸気時に心拍数増加, 呼気時に減少(副交感神経機能亢進)。古来からの多くの健康法は呼気を大切。呼吸運動を介して副交感神経機能を部分的に随意に調整可能。
2. 体位と交感神経機能: 立位で交感神経機能亢進
(カテコールアミン濃度が臥位の2倍)

D. 刺激による生体反応と生体機能との同期

1. 副交感神経反応; 呼気時、座位で副交感神経機能持続的に亢進
2. 交感神経反応; 臥位で同期

(西条一止: 鍼灸治療の科学。鍼灸治療の科学、西条一止ら編、p32、医師薬出版、東京、2000)